

看護学生の入学時における学科志望動機

著者	上妻 瑞江, 安友 裕子, 山中 克己, 堀井 直子, 堀容子, 松本 伸子
雑誌名	名古屋栄養科学雑誌
号	1
ページ	99-108
発行年	2015-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1095/00000818/



《報告》

看護学生の入学時における学科志望動機

上妻瑞江^{*1} 安友裕子^{*1} 山中克己^{*1} 堀井直子^{*2}
堀 容子^{*3} 松本伸子^{*4}

要旨

平成23年7月に、看護師養成課程をもつ大学（2校）、看護専門学校（1校）に在籍し、同意が得られ同意書に署名した学生に対し、看護学科志望動機のアンケートを行った。無回答項目のあるものを除いた446名（大学生205名、専門学校生241名）を解析対象とした。上位5項目は、1位「人の役に立ちたい」85.7%、2位「身近な人の役に立ちたい」80.0%、3位「人が好き」と「再就職や転職」が同率の73.3%、5位「看護に興味があった」69.3%であった。男女別、養成課程別にみても、1位および2位は「人の役にちたい」または「身近な人の役に立ちたい」であった。3位以下には次の特徴がみられた。男性では「国家資格である」、女性では「再就職や転職に有利」との特徴がみられた。また、専門学校生では「再就職や転職に有利」、「初任給が高いと感じた」と挙げる者が大学生より多かった。

キーワード：志望動機、看護師養成施設、自記式アンケート調査

1. 序論

現代の専門職育成は、その職種の養成校で実施されている。教育課程は、大学、短期大学、専門学校、高等学校専攻科、5年一貫教育などと多様である。その多様な教育課程のなかで、学生が何を思い看護師という職業を志し、何を基準として養成校を選択・決定しているのか。

日本における看護師養成校数（平成22年）は、看護大学188校、定員5,394名、短期大学27校2,560名、専修学校・専門学校721校36,823名、その他高等学校専攻科・高等学校5年一貫性を含め、全入学者定員58,947名である¹⁾。また、第99回（平成22年2月実施）看護師国家試験の受験者数は52,883名、合格者は47,340名（89.5%）である²⁾。

国の施策として、看護師養成については「少

子高齢化の進行、医療技術の急速な進歩、医療安全の確保など看護職員の計画的かつ安定的な確保が必要」と国及び県の需給見通しが5年次ごとに計上されている。看護師需給の現状は人口動態、疾病要因などを含めた施設状況や看護師養成数に相当する退職が毎年あり、恒常的・慢性的な看護職員不足の状態にあり、需給見通しは94～99%と100%には至っていない³⁾。

その中にあっても時代の変遷として、養成校の大学化が進んでいる。特に看護師養成校は大学化や統廃合に伴い養成校・養成数に変化がみられている。これらの状況からも学生のニーズを捉えることは学生の確保および慢性的な看護師不足を解消するための第一歩であると考えた。そこで、看護学生の進学志望動機を分析していくとともに、男女別、養成校別（大学および専門学校）についても検討を行った。

*1 名古屋学芸大学管理栄養学部

*2 中部大学生命健康科学部保健看護学科

*3 ケアラーサポート研究会

*4 医療法人寿康会大府病院

2. 目的

学生はどのような動機で「看護師」という職業を選択し、複数の教育機関から養成校(大学・専門学校)を選択しているのか、その志望動機を明らかにし、看護師の選択動機の相違点を比較し、教育・指導への課題を検討する。

3. 方法

「看護師養成校への進学動機」に関する先行研究⁴⁻¹⁰⁾を参考に、看護師志望動機についてのアンケート項目を検討、作成した(資料1)。

対象者はアンケート賛同署名用紙に記入後、アンケート用紙に無記名で記入・回答した。アンケート用紙の配布・実施・回収は同日に行われ、得られた情報はプライバシー保護のため番号管理し施設名と個人名が出ないようにした。データの入力、分析については、名古屋学芸大学大学院で実施した。

調査対象は、看護師養成大学(2校)及び専門学校(1校)に、平成23年7月に在籍し、同意が得られ同意書に署名した学生である。調査は、平成23年7月に行った。

倫理的配慮は以下①～③に従い、同意書の説明を行った後、署名を依頼した。①調査協力者に対して研究の趣旨・目的等を説明して、同意が書面で得られた人のみ対象とする。得られた情報は本研究の目的以外には使用しないことを確約する。②個人情報データには細心の注意を払い、不要になった時点でシュレッダーにかけ破棄する。③対象者は研究のどの段階であっても、大きな負担が生じた場合は、調査の事態を含め、十分な話し合いができる権利があることを保障する。その場合、何ら不利益が生じないことを保障する。

4. 結果

平成23年7月に看護師養成大学、看護専門学校に在籍し、同意が得られ同意書に署名した学生数は、看護師養成大学生231名(1年次生～4年次生)、専門学校生349名、合計580名であっ

た。しかし、無回答項目のあるものを除き入学前最終学歴高等学校で、22歳以下の学生が回答したものを集計した。

大学生205名(男子17名、女子188名)専門学校生241名(男子24名、女子217名)、総数446名(男子41名、女子405名)を解析対象としてデータ集計した。

1) 看護学生の志望動機

看護師志望動機を図1に示した。上位5項目は、1位:質問12「人の役に立ちたい」85.7%、2位:質問13「身近な人の役に立ちたい」80.0%、3位:質問4「人が好き」と質問17「再就職や転職」が同率で73.3%であった。5位:質問11「看護に興味があった」69.3%であった。下位5項目は質問21「宗教上・奉仕の精神」0.2%、質問20「たまたま合格」15.2%、質問9「知人が看護師」16.4%、質問19「学力に見合った」20.0%、質問14「世界で活躍したい」24.9%であった。

2) 男女別にみる看護学生の志望動機

志望動機を男女別に集計した結果を図2に示した。女子の志望動機上位5項目は、1位:質問12「人の役に立ちたい」86.9%、2位:質問13「身近な人の役に立ちたい」80.5%、3位:質問17「再就職や転職」76.3%、4位:質問4「人が好き」75.6%、5位:質問11「看護に興味」71.1%であった。

男子上位5項目は、1位:質問13「身近な人の役に立ちたい」75.6%、2位:質問12「人の役に立ちたい」73.2%、3位:項目15「国家資格」61.0%、4位:同率51.2%で、質問11「看護に興味」、質問18「人の世話が好き」、質問4「人が好き」であった。

女子下位5項目は、質問21「宗教・奉仕の精神」0.2%、質問20「たまたま合格」15.3%、質問9「知人が看護師」17.0%、質問19「学力に見合った」19.5%、質問14「世界で活躍」24.9%であった。

男子の下位5項目は、質問21「宗教・奉仕の精神」0.0%、質問9「知人が看護師」9.8%、質問20「たまたま合格」14.6%、質問1「人の勧め」と質問10「TV・書籍」が各22.0%であった。

資料1 看護師の進学動機に関する調査アンケート

看護師の進学動機に関する調査

学校名 ()

1、年齢、性別、出身地を記入してください。

年齢:() 歳) 性別: 男・女 出身地:() ※都道府県名を記入

2、入学前の学歴等について下記のどれでしたか

高校生・専門学生・大学を卒業・短期大学を卒業・社会人・その他()

3、2で社会人と記入した方にお聞きます。社会人の前の学歴は下記のどれでしたか

高校生・専門学生・大学を卒業・短期大学を卒業・その他()

4、学校へはどこから通っていますか

自宅・下宿

5、なぜ、看護の道を選び看護学科(または看護学部)に入学しようと思いましたか？

下記の質問に、はい・いいえのどちらかで回答してください。

- | | |
|---|--------|
| 1 他の人に勧められた
主にどなたの勧めですか → 父・母・兄弟・学校の先生・その他 () | はい・いいえ |
| 2 人とコミュニケーションをとることが好きだから | はい・いいえ |
| 3 将来の職業に自己表現できる仕事だと感じた | はい・いいえ |
| 4 人と接するのが好きだから | はい・いいえ |
| 5 家族の病気や家族の入院などから看護師にあこがれた | はい・いいえ |
| 6 入学前に看護を体験し(オープンキャンパス、看護体験等)看護師にあこがれた | はい・いいえ |
| 7 過去に入院や通院などで看護を体験した経験があり、看護師にあこがれた | はい・いいえ |
| 8 家族に看護師がおり、あこがれた
家の中のどなたですか → 父・母・兄弟・祖母・祖父・親戚 | はい・いいえ |
| 9 知人に看護師がおり、あこがれた | はい・いいえ |
| 10 看護に関するニュースやテレビ番組、書籍をみてあこがれた | はい・いいえ |
| 11 看護に関することに興味があり学んでみたいと思った | はい・いいえ |
| 12 社会に出てから人のために役立つ仕事がしたいと思った | はい・いいえ |
| 13 身近な人を助けたい | はい・いいえ |
| 14 世界で活躍したい | はい・いいえ |
| 15 国家資格が得られることに魅力を感じた | はい・いいえ |
| 16 初任給が他の職業の同じ年代の人よりも高いと思った | はい・いいえ |
| 17 再就職や転職がしやすいから | はい・いいえ |
| 18 人の世話をするのが好きだから | はい・いいえ |
| 19 自分の学力に合った学校が看護師の養成校であった | はい・いいえ |
| 20 たまたま現在の学校に合格したから | はい・いいえ |
| 21 宗教上の観点から、奉仕の精神に基づいて選んだ | はい・いいえ |

男子の志望動機が女子より高い項目は、質問7「看護を受けた経験」、質問8「家族が看護師」、質問19「学力に見合った」の3項目でその他18項目はすべて女子のほうが高かった。

3) 養成校別にみる看護学生の志望動機

志望動機を大学と専門学校の養成校別に集計したものを図3に示した。大学では、1位；質問12「人の役に立ちたい」87.8%、2位；質問13「身近な人の役に立ちたい」80.5%、3位；質問11「看護に興味」74.6%、4位；質問4「人が好き」73.2%、5位；質問2「コミュニケーション

が好き」67.8%であった。下位5項目は、質問21「宗教上・奉仕の精神」0.5%、質問9「知人が看護師」11.7%、質問20「たまたま合格」14.6%、質問19「学力に見合った」15.6%、質問14「世界で活躍」24.9%であった。

専門学校では、1位；質問12「人の役に立ちたい」83.8%、2位；質問13「身近な人の役に立ちたい」79.7%、3位；質問17「再就職や転職」79.3%、4位；質問4「人が好き」73.4%、5位；質問16「初任給」70.1%であった。下位5項目は、質問21「宗教上、奉仕の精神」0.0%、質問20「たまたま合格」15.8%、質問9「知人

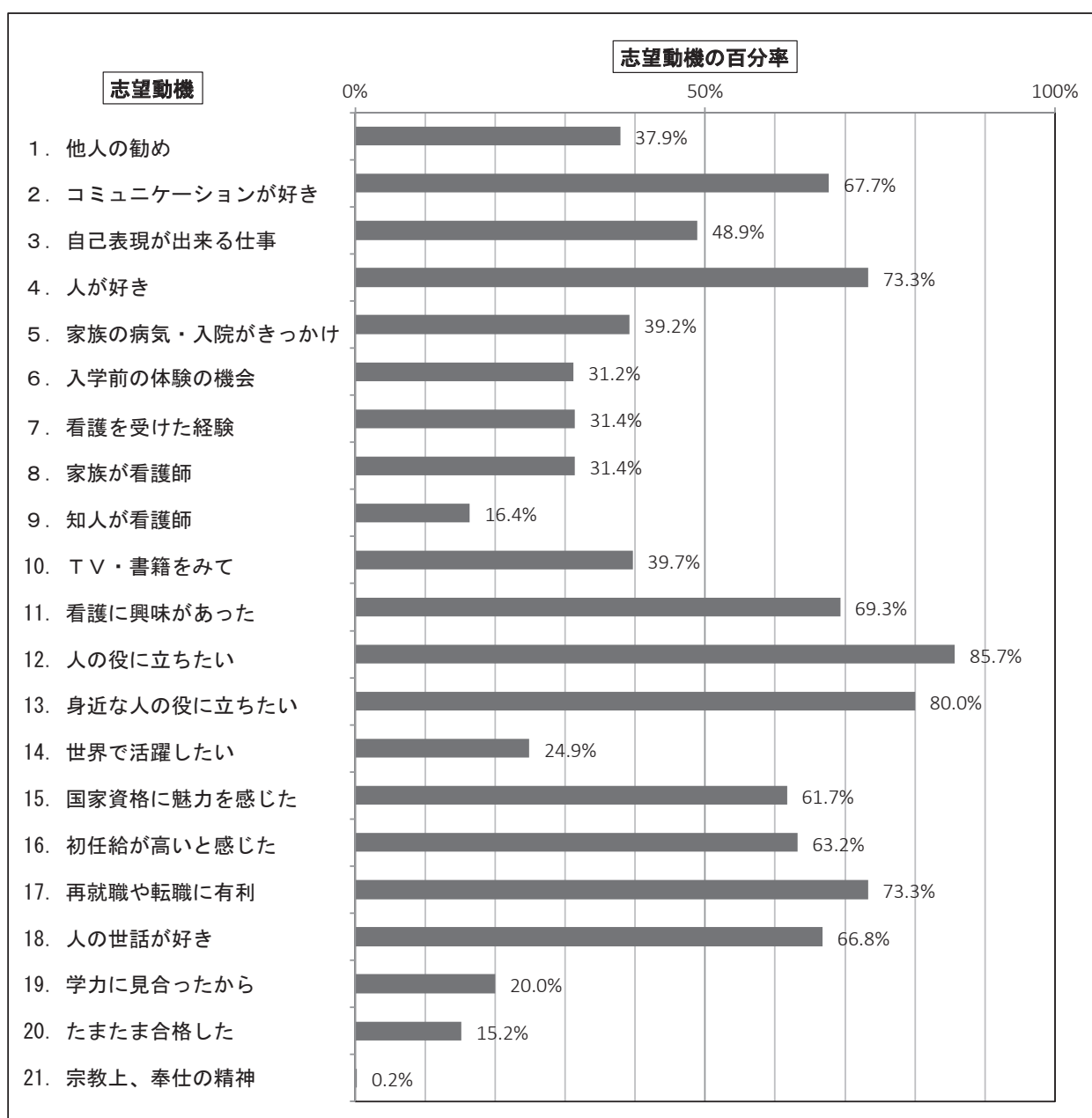


図1 看護学生の志望動機 (n=446名)

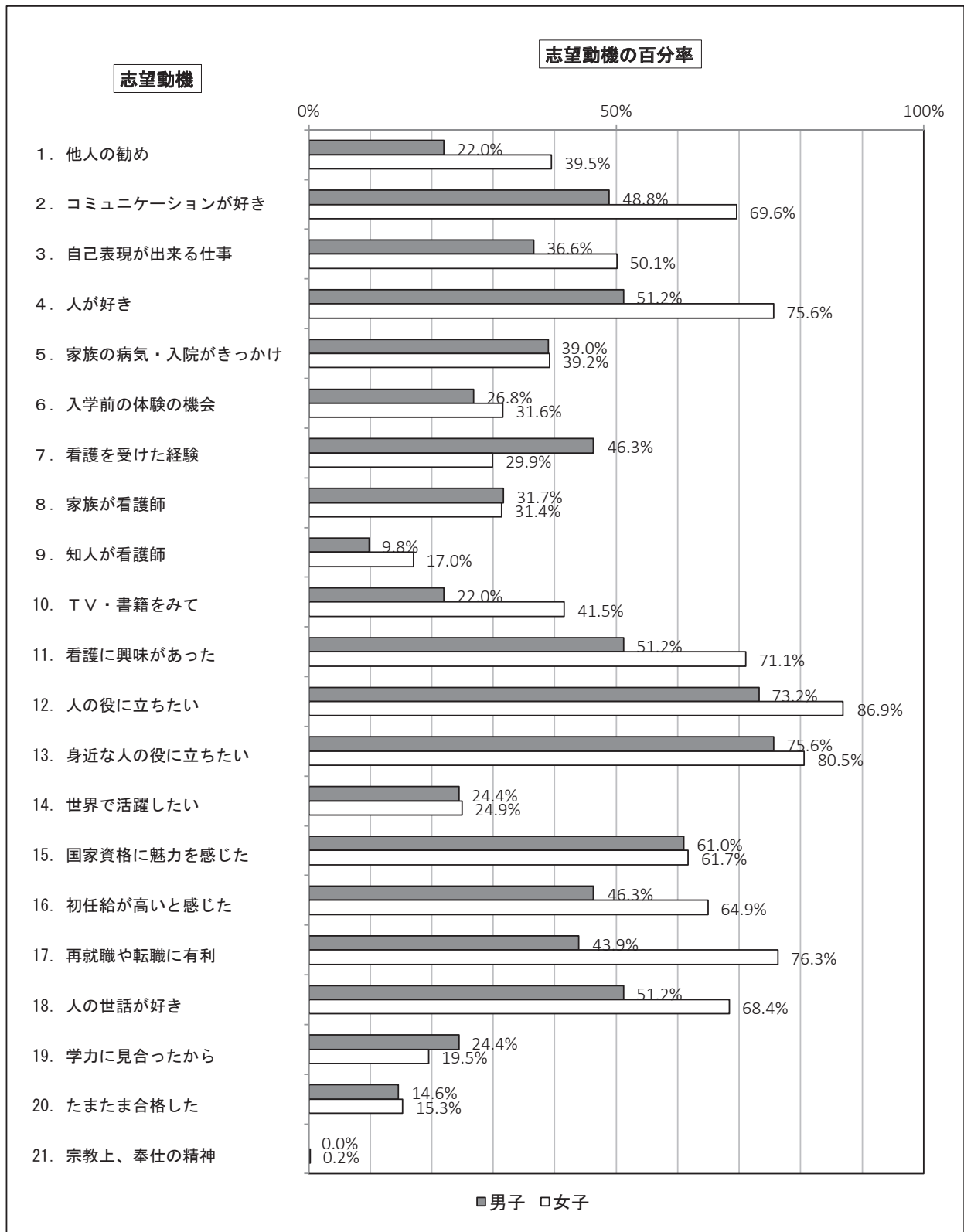


図2 男女別 看護学生の志望動機 (男性 n=41、女性 n=405)

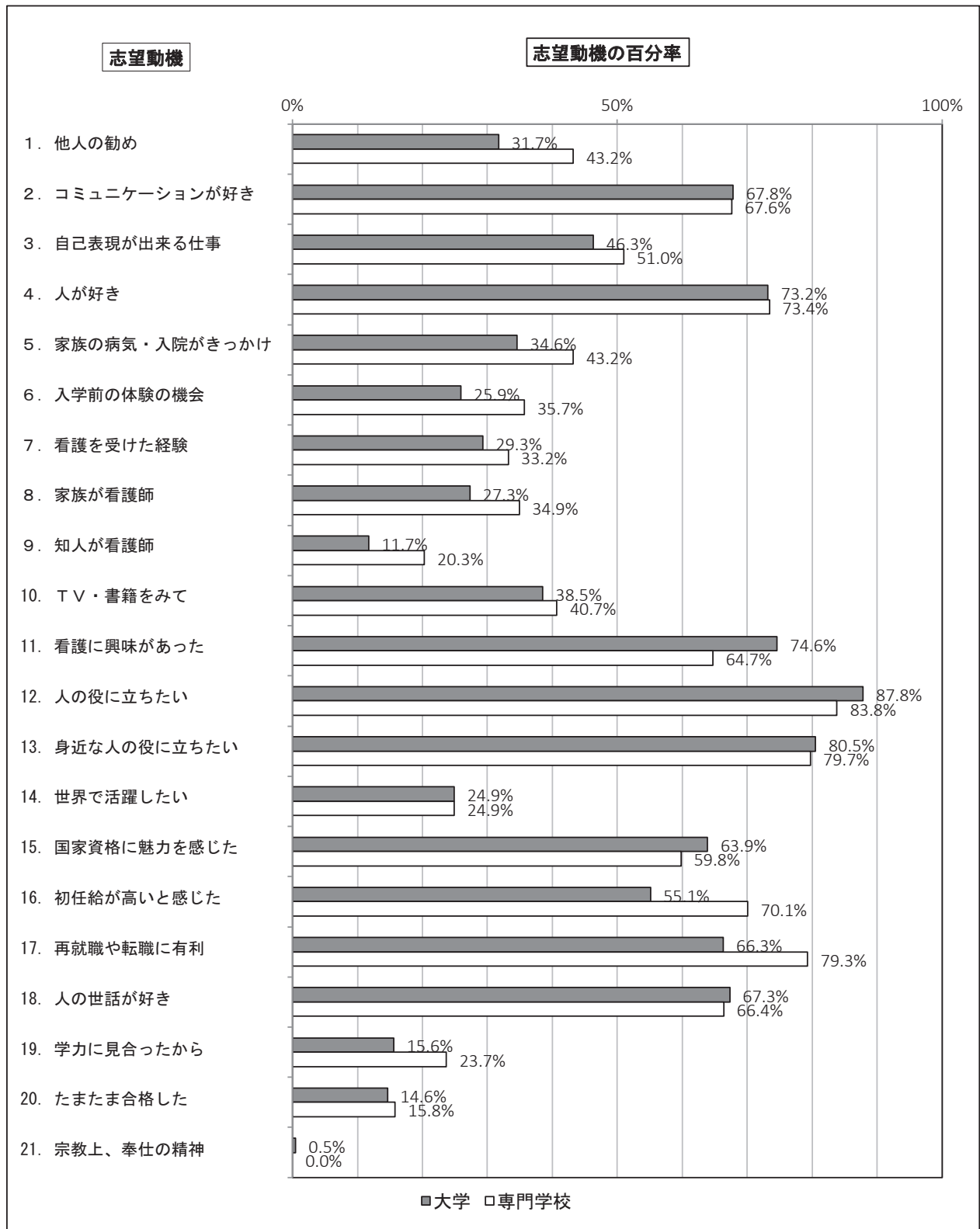


図3 養成課程別 看護学生の志望動機 (大学 n=205、専門学校 n=241)

が看護師」20.3%、質問19「学力に見合った」23.7%、質問14「世界で活躍」24.9%であった。

大学と専門学校ともに志望動機が上位であった項目は、質問12「人の役にたつ」、質問13「身近な人の役にたつ」、質問4「人が好き」質問2「コミュニケーション」、質問18「人の世話が好き」であった。大学では質問11「興味」が上位にあり、専門学校では質問17「再就職・転職」・質問16「初任給」の方が上位であった。

5. 考察

看護師の志望動機は「人の役に立ちたい」「人・看護への興味関心」が最も多かった。これは、堀井らの調査⁶⁾においても同様の結果が示されている。且つ「再就職や転職」を動機とする者も多く、就職に有利な資格取得を前提とした職業として意識されていることが示された。また、「人が好き」73.3%、「コミュニケーションが好き」67.7%と人との関わりを挙げる学生が多かった。看護師という職業そのものが人間関係を基盤としていることから、自身が職業に適性があることも理解し、志望をしている学生が多いと考えられた。

全体の31.4%が「家族が看護師」、16.4%が「知人が看護師」と、約半数が身近な看護師の存在があることが分かった。この「家族背景」による動機は、入学動機だけでなく、卒業後の（看護師としての）進路にも影響していることが明らかになっており¹¹⁾、身近に看護師がいることは進路選択に大きく影響していた。

下位項目について、「宗教上の理由・奉仕の精神」は0.5%と非常に低かったことから、看護職と宗教の関係性は見出せなかった。これは、日本人に奉仕の精神が無いのではなく、日本人には宗教を中心軸とした職業選択基準が意識化されていないだけである。日本人は一神教ではなく八百万の神といわれるように多神教を宗教思想に持つ人が多い。加えて「人の役に立ちたい」という思いは強く、そのため奉仕の精神というより社会貢献的な精神性を持つ国民性があると考える。

女子の上位項目の特徴として、質問17「再就

職や転職」が76.3%、質問16「初任給」が64.9%と5位にランクされている。女子では、「人を助け、役に立ちたい」の他に、「再就職・転職」に有利で且つ「初任給」も高い職業であることを理由にしている傾向が見られた。

一方、男子は「人を助け、役に立ちたい」の他に、「国家資格取得」を志望動機にしているものが多く、「再就職や転職」に有利であることや「人の世話が好き」、「看護に興味」も半数以上が志望動機としていた。

大学と専門学校いずれも「人を助け、役に立ちたい」「人が好き」といった理由が志望動機として最も多いが、大学では看護・人・コミュニケーションの観点から「人間関係」を中心とした関わりを職業イメージにもって進路選択する傾向が強く、専門学校では「初任給が高い」、「再就職に有利」など、現実的な収入（給与）が進路選択上を優先する傾向があった。永島（12）は養成校別（大学生、短期大学生、専門学校生）の検討をしており、学習態度については短期大学生が積極的であり、専門学校生は自立するという観点から「看護職」を高く評価していた。今回の調査を合わせても、専門学校生は大学生より、自立を踏まえ、就職、収入面を重視していることが考えられた。

「他の人の勧め」であった者は37.9%であったが、5割以上の学生は自己決定していた。専門学校の方が、「他人の勧め」による割合が高く、大学の方が自己決定の割合が高かった。質問20「たまたま合格」が大学14.6%、専門学校15.8%の学生が「はい」と答えていることから、各々約85%の学生は、養成校合格に向けて受験勉強し、試験に臨んだと推測することができる。主体的な学生の入学後適応は高く、他の人の勧めで志望した学生の適応が低いと考えられるので、他の人の勧めで入学した学生の学習意欲の維持向上がひとつの課題といえる。入学後の早期から看護の魅力に気づかせ、看護を学びたい思いの強さを刺激した教育内容・方法を開発することが求められる¹³⁾。

質問6「入学前の体験の機会」は全体で31.2%であった。大学や専門学校では、入学前の体験入学やオープンキャンパスを開催している。特

に専門学校では、頻回にオープンキャンパスを開くことが多く、そのため大学より、専門学校の方が「入学前の体験の機会」を志望動機とする者が多く見られたと考えられる。高校生への1日看護体験が志望動機に影響している¹⁴⁾、オープンキャンパスが影響している¹⁵⁾という報告からも、これらは重要であると考ええる。現在では、中学校で職場体験実習を展開する学校も多く、小中高生の時期から多様な職業を知り、体験することで職業や働くことに関心を向けさせることが将来の進路・志望動機への一助になると考ええる。

今回の調査は入学時の志望動機のものである。入学後の意識変化調査は行っていない。したがって「看護への思いの強さ」の変化は不明である。しかし、志望動機として「人助け・社会的役立ち」「人が好き」「興味」の項目が上位にあることから学習意欲は高いといえる。

最終的に国家試験を受け看護職として就職するまでは3～4年を要する。看護は生命に関わる職業でもあり看護師に求められる知識・技術・態度といった実践能力への期待は高い。学生への動機の強化には、知識・技術および、価値観や倫理などの態度の教育も重要である⁷⁾。その間、看護を学びたい思いが維持強化される可能性は入学後の教育環境・生活環境に大きく左右される。講義・演習・実習と段階を追った教育が展開されていくが不適応などから退学する学生もある。学生の青年期の発達段階の特徴を踏まえた支援も重要である^{16,17)}。

学生の志望動機を理解し、必要な資質修得させ社会に専門職業人として輩出するためにも学生自身が自己の入学時の志望動機を思い返しながらか看護師として自己確立ができるような支援が養成校側に求められている。

入学後の志望動機の変化や卒業後など継続的調査をすることによって時代の変化や学生の養成校側への期待等が明らかになっていくであろう。常にどのような看護職を育成するか、どのような教育内容を学生に提供できるかを考えることが教育機関に求められている^{18,19)}。

参考文献

- 1) 文部科学省ホームページ
- 2) 厚生労働省ホームページ：第103回看護師国家試験合格発表
- 3) 厚生労働省：第七次看護職員需給見通しに関する検討会報告書
- 4) 竹本由香里：看護学生の看護系大学への進学志望動機の検討。宮城大学看護学部紀要 11(1)：13-20, 2008
- 5) 石井俊行, 坪井敬子：看護系大学1期生の志望動機と看護に関する捉え方。インターナショナル Nursing Care search 8(1)：77-84, 2009
- 6) 堀井直子, 三浦貴世美ほか：本学看護学生の入学時における学科志望動機-志望同機を反映させた教育を探る-。中部大学生命健康化学研究所紀要 4：11-20, 2008
- 7) 西郷淳子, 岩井邦子, 本田喜久子ほか：本学学生が看護を学ぶことを決定した動機の実態。聖路加看護大学紀要 15：78-87, 1989
- 8) 酒井志保, 滝内隆子, 佐々木真紀子ほか：看護学生の受験理由と看護学科選択理由に関する実態-本学看護学科1期生の入学時調査から-。日本赤十字秋田短期大学紀要 1：83-90, 1996
- 9) 横山美紀, 岩井邦子, 本田喜久子ほか：聖路加看護大学入学生の看護ならびに本学の選択動機。聖路加看護大学紀要 22：72-79, 1996
- 10) 富澤美幸：本学看護学科学学生の看護に関する意識調査と社会への関心度。足利短期大学研究紀要 17：57-64, 1997
- 11) 工藤由紀子, 石井範子, 平元和泉ほか：看護大学生の看護に対するイメージ-入学時における家族背景・入学動機と卒業後進路志望との関連から-。秋田大学医学部保健学科紀要 11(2)：112-126, 2003
- 12) 永嶋由理子：看護学生の学習意欲の比較検討-専門学校、短期大学、大学の看護学生について。山口県立大学看護学部紀要 6：37-44, 2002
- 13) 白鳥さつき：看護大学生が看護職を自己の職業と決定するまでのプロセス構造。日本看護研究会雑誌 32(1)：113-123, 2009
- 14) 淘江七海子, 吉本知恵, 竹内美由紀ほか：看護学科受験生への大学説明会の内容の検討-看護学校1日体験入学高校生と大学在学学生へのアンケートから-。香川県立保健医療大学紀要 2：119-186, 2005
- 15) 内山久美, 大澤早苗, 横山孝子：職業的社会的科と看護学生の意識-オープンキャンパス参加者の声と入学後の「看護イメージ」から-。保健科学雑誌, 2, p79-85, 2005

- 16) 国眼真理子:読めば分かる いまどきの若者の考え方・育て方, 日総研, 2003
- 17) 服部祥子:生涯人間発達論－人間への深い理解と愛情を育むために－, 医学書院, 2002
- 18) 田島桂子:看護実践能力の育成に向けた教育の基礎, 医学書院, 2004
- 19) 小山真理子:看護教育の現状と課題. 社会保障研究 36(4):505-509, 2001

《Research note》

The motives of students at a nurses' school students for choosing to study the subject of nursing.

**Mizue Kozuma^{*1}, Hiroko Yasutomo^{*1}, Katsumi Yamanaka^{*1},
Naoko Horii^{*2}, Yoko Hori^{*3}, Nobuko Matsumoto^{*4}**

Purpose: To know the motives of nurses' school students for choosing a nurses' course in a college or a vocational school.

Method: Cross sectional research was conducted with students in two colleges and one vocational school using a self-administered questionnaire (21 questions) in July, 2011.

Results: The number of analyzed by the questionnaire was 205 from the colleges (50 male and 155 female) and 241 vocational school (50 male and 191 female). The percentages of the top five motives chosen were ranked as follows: 1) A job where I feel useful for others. (85.7 %); 2) Want to help people around me. (80.0%); 3) Like being with people (73.3%); 4) Easy to re-enter employment or re-locate. (73.3%); 5) I am interested in nursing. (69.3%); The reason given from a religious viewpoint was very low in response. When comparing male and female, results showed that responses for the item "nurses' license is a nationally recognized one" was higher for males, whereas the responses for the item "easy to re-enter employment or relocate" was higher in females. The percentage for the item "easy to re-enter employment or relocate" as well as "the salary is higher than other jobs for the same generation" was higher for vocational school students than for college students.

Conclusion: We revealed the motives of the college and vocational students for choosing a nursing course.

Discussion: Clearing the motives of nurse students in school is useful for estimating the supply and demand relation of nurses in the future.

Keywords: Motives, Nurses' school student, Self-administered questionnaire

* 1 Department of Nutritional Sciences, Nagoya University of Arts and Sciences

* 2 Department of Nursing, College of Life and Health Science, Chubu University

* 3 Japan Society for Carer Support

* 4 Ohbu Hospital